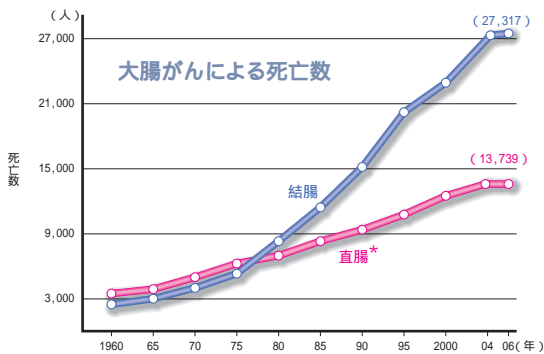


増え続ける大腸がん



食生活の欧米化により、大腸がん(結腸がん、直腸がん)は増え続けています。2006年の大腸がんによる死亡者は41,056人で、肺がん、胃がんに次いで3番目です。

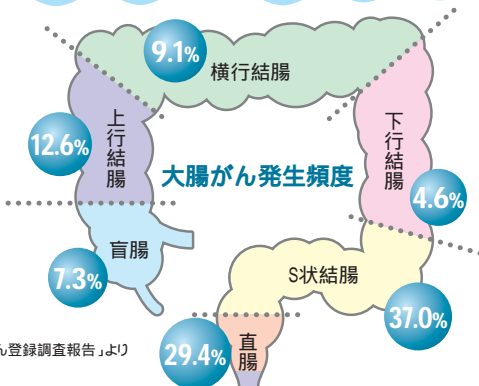
動物性脂肪が多く、食物繊維の少ない食事

*直腸S状結腸移行部及び直腸
厚生労働省「人口動態調査 平成18年」より

大腸がんの部位別発生率

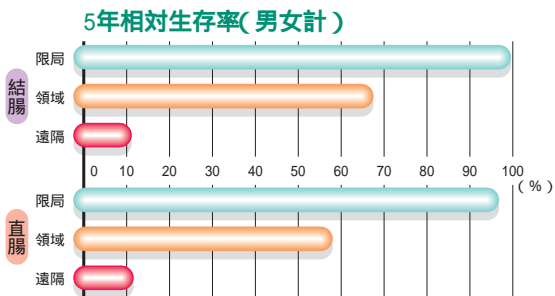


大腸は長さ1.5mの長い結腸と肛門につながる短い直腸に分けられます。発生部位別に見るとS状結腸と直腸にできるものが多くを占めます。



大腸癌研究会「全国大腸がん登録調査報告」より

早期発見・治療が大切!



病気の発見が遅れ、治療が遅れたり適切な治療を受けられず、手遅れになることがあります。大腸がんは早期に発見すればほとんど治ります。

限局:がんが結腸または直腸に限局している
領域:所属リンパ節に転移があるが隣接臓器・組織に浸潤していない
遠隔:さらに進展している

(財)がん研究振興財団「がんの統計2008年度版」より
〔地域がん登録における6つの府県(宮城、山形、新潟、福井、大阪、長崎)のデータのうち直腸、結腸の抜粋〕

大腸がんリスクのチェック



- 家族血縁に大腸がんになった人がいる。
- 以前に大腸がんやポリープで治療を受けたことがある。
- 潰瘍性大腸炎やクローン病の治療を受けている。
- 太っている。
- 運動不足である。
- 疲れがひどいことがある。
- 日々ストレスが多い。
- 肉や脂っこいものが好き。
- 野菜や果物をあまり食べない。
- お酒は毎日、かなり飲む。
- タバコを吸う。
- 間食が多い。
- 肉や魚の焦げたところが好き。

✓の数が多いほど、リスクは高いといえるでしょう。しかし、当てはまる項目がないからといって、リスクが0ということではありません。

こんな人はすぐ検査を!



大腸検査の流れ

大腸がんは自覚症状のない早期に発見・治療すると、ほぼ100%の人が完治するといわれています。
 便通異常や血便のような症状が現れたときには、すでにがんが大きく成長していることがあり、そのまま放置すると手遅れになることがあります。
 大腸がんの検診を受けている人は、受けていない人に比べ、大腸がんによる死亡リスクが6~8割低くなります。

